

(別紙5) 図書館システム機能要件一覧表 兼 回答書

機能要件回答について対応方法欄に以下の基準に従い回答のこと

提案時標準機能：◎

稼働までに提供：○

カスタマイズ提供：△

対応不可：×

※カスタマイズ内容は、記載内容が細かい場合は添付資料としカスタマイズ内容欄とは別に提出すること

※カスタマイズ費用は、明細毎に金額（単位は円、税抜き）を記載のこと

※記号もしくは、代替案やオプション等の金額を記入

分類	No.	要求機能	（回答欄）機能状況			
			回答 ◎○△	代替案※	不可×	※オプションもしくは カスタマイズ金額
基本仕様						
インフラ	1	クライアントOSはWindows11以降であること。				
	2	図書システムの各業務は最新のMicrosoft Edge(IEモード)またはGoogleChrome上で動作可能であること。				
セキュリティ	3	図書館システムは、セキュリティに配慮し、ブラウザからプラグイン（applet）やクライアントで動作する仕組み（JWS）などではないこと。				
	4	利用者及びオペレータのログイン時に複数の異なる認証要件を要求することにより、セキュリティレベルを高めることができること。（多要素認証対応）				
言語	5	多言語(UTF-8)を扱えるシステムであること。				
操作性	6	各関連業務内の処理画面(窓口業務内の貸出、返却等)の個々の展開はホーム画面に戻らなくてもできること。				
	7	停電・瞬電時のバックアップ機能があること(無停電電源装置等)。				
	8	図書システムの障害時、機能追加時におけるプログラムの入れ替えはサーバのみで対応可能でありクライアント毎の入れ替えは不要であること。				
	9	一台の端末からシステム共通の設定変更が行えること。				
	10	一台の端末から各クライアントIDの設定変更が行えること。				
	11	オプションなどを追加することによりリライトカード、IC機器・図書読書通帳などの外部接続に対応できること。				
貸出・返却・督促						
貸出	1	カウンターにおいて利用者に資料の貸出サービスを行い、個人貸出・団体貸出・相互貸借・館内閲覧に対応できること。				
	2	館毎かつ利用者資格毎に貸出規則（貸出日数・延期日数・延期回数・督促警告回数・貸出冊数・合計貸出冊数）設定ができること。さらに、貸出日数・延期日数・貸出冊数は資料種別毎にも設定できること。主な貸出規則毎の現在貸出数が表示できること。				
	3	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して、貸出を行うかどうかを判断できること。（確認せず貸出させないこともできること）				
	4	未登録の利用者や資料でも登録することなく、すぐに貸出できること。後から登録し貸出情報と紐づけできること。				
	5	貸出冊数オーバー・期限切れ利用者・督促利用者・予約有り利用者・無効利用者・コメント有り等を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。				
	6	貸出画面上で、利用者の現在貸出中・予約中資料一覧を表示できること(10件以上/画面)。				
	7	特定の資料区分の資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。				
	8	貸出を行うと、利用者ID、貸出本、返却予定日、貸出中本、予約待人数が記入された貸出情報が印刷され、利用者に渡すことができる機能を標準で有すること。自由なコメントも随時修正し、印刷できること。				
	9	貸出状況一覧で、資料詳細画面へ遷移し、資料の最終返却者が確認できること。				
返却	10	返却資料のバーコード走査だけで返却が完了できること。				
	11	A館で予約してB館で借りた本をC館で返却しても管理・識別ができること。				
	12	用途に合わせて下記3種類の返却モードが用意されていること。また処理場面に応じてワンタッチでモード切替が可能なこと。 ・通常返却(開館中利用者と対面し返却する場合のモードで未返却資料をタブ切替で表示できること) ・ポスト返却(ブックポストへの大量返却時等、返却利用者チェックを行わず連続で返却が行え、返却資料が一覧画面に蓄積できること) ・履歴参照返却(通常返却の機能に加え、ポスト返却のように返却資料が一覧画面に蓄積できること)				

督促	13	一定期間以上、未返却の場合、または、返却予定日の範囲指定により、督促ハガキの印刷ができること。その際、まず、該当利用者の一覧が画面に表示でき、ハガキ印刷をする利用者を任意に選択できること。また、設定で督促回数をカウントアップでき、貸出画面で確認できること。				
	14	一定期間以上、未返却の場合、または、返却予定日の範囲指定により未返却者一覧表示後、メールで督促の通知ができること。また、利用者毎にメール通知可否設定ができること。				
利用者管理						
利用者検索	1	利用者氏名(カナ、日本語、全半角の混在が可能)、電話番号、利用者コード、利用者区分、住所コード、生年月日、E-mailアドレスからの検索ができること。電話番号はハイフン抜きでも検索でき、また市外局番なしでも検索できること。				
	2	利用者の詳細情報が表示できること。氏名、電話番号、生年月日、年齢、住所、最終利用日、最終督促日、督促累積回数、有効期限、予約順位、予約待ち順位、貸出資料一覧、予約資料一覧等が確認できること。また、印刷もできること。				
	3	プライバシー保護のため利用者一覧及び詳細画面のままに離席した時、一定時間経過後、メニュー画面へ自動で戻ることができること。				
利用者登録、利用者管理	4	新規利用者の登録、既存利用者の登録情報の修正、登録利用者の削除、利用者カード紛失時等の再交付処理ができること。				
	5	利用者カードの再発行ができること。その場合、貸出・予約情報は引き継がれること。				
	6	有効期限や最終利用日等の条件に該当する利用者を抽出し、無効区分、利用者資格区分等の情報を一括で更新できること。				
	7	生年月日や有効期限等の条件に該当する利用者を抽出し、コメント情報を一括で更新できること。				
	8	利用者毎にメール発信履歴が参照できること。各種メール内容(督促・予約連絡等)とその発信日時が確認できること。				
	9	利用者一括登録時、初期設定されたパスワードの有効期限が設定できること。				
	10	利用者情報特定後、利用者への督促処理ができること。				
資料検索・予約						
資料検索	1	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目・タグ名等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。				
	2	AND、OR、NOTを使用し、項目間の複合高速検索ができること。				
	3	項目により、前方一致、完全一致および中間一致(分かち項目)、後方一致で認識し、検索ができること。				
	4	各種検索キーをカナ・漢字・アルファベットの全半角両方で指定して検索処理ができること。				
	5	対象館を全館、自館限定、または、任意に複数館指定して検索でき、検索結果も、本が今、どの館のどこでどのような状態になっているかを一目瞭然に表示できること。				
	6	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字(例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等)どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの(例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等)も、どちらで入力しても検索できること。				
	7	国立国会図書館が保有する書誌情報と横断検索が可能なこと。また、国立国会図書館が保有する書誌情報の検索結果がダウンロード可能なこと				
予約	8	館毎かつ利用者資格毎に予約規則(予約有効日数・合計予約件数)設定ができること。さらに予約件数に関しては窓口・館内OPAC・WebOPAC毎に設定ができること。				
	9	予約本の現在の状態(予約中、予約棚、配送中)の管理ができること。				
	10	書誌予約、所蔵予約いずれにも対応できること。予約時にどちらの方法で予約するかを選択できること。 書誌予約：複本がある場合、全ての複本に予約がかかり、どれか一冊が返却された時点で予約通知ができること。 所蔵予約：複本がある場合でも、所蔵を特定して予約をかけ、特定の所蔵が返却された時点でのみ予約通知ができること。				
	11	予約件数の制限がかかること。処理館、予約種別(窓口予約、インターネット予約等)、利用者資格、資料種別(図書、雑誌等)毎の件数制限ができること。また、予約種別合計、資料種別合計での予約件数制限もできること。				
	12	予約入力の件数統計(予約区分：窓口、OPAC、WebOPACと資料種別ごと)が出力できること。				
	13	上下巻等の複数資料に予約を行い、資料が全てそろった時に貸出可能となるセット予約ができること。				
館内OPAC						
利用者開放端末 (館内OPAC 全般)	1	キーボードレス(タッチスクリーン)操作で複合キー検索により、資料の検索ができること。				
	2	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。				
	3	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字(例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等)どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの(例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等)も、どちらで入力しても検索できること。				

	4	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧の表示ができること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示ができること。			
	5	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。			
資料管理業務					
図書管理	1	各種可変長マークデータは完全に取り込むことができること。(完全可変長項目数対応)			
	2	複本のデータ管理ができること。			
	3	マークのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき、最適な運用環境を実現できること。			
	4	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力ができること。			
	5	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。			
雑誌管理	6	タイトル書誌一覧機能により入力が簡略化でき、タイトル/巻号の書誌連携が容易であること。雑誌タイトル(タイトル書誌)は、雑誌コードによる呼出しができること。			
	7	タイトルと各巻情報を分けて管理し、検索できること。			
	8	雑誌タイトルが改題された場合、変遷前タイトル書誌と変遷後タイトル書誌の関連付けができ、検索でどちらかのタイトルでヒットしても関連タイトル書誌情報が参照できること。また、複数のタイトル書誌の合併や1つのタイトル書誌からの派生/分離にも対応できること。			
AV管理	9	曲名・演奏者・出演者等の各種情報を漏れなく可変長登録できること。			
	10	著者名・シリーズ名・出版社名、タイトル等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力ができること。			
	11	請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに分けて登録できること。それぞれの入力文字属性に応じIMEのON/OFF/半角制御ができること。			
蔵書管理	12	持禁区分の設定・変更処理が連続でできること。			
	13	資料の除籍・復籍処理が連続でできること。			
蔵書点検	14	蔵書点検前処理等の事前処理無しで蔵書点検が開始できること。			
	15	オンライン、オフラインの両方で蔵書点検ができること。			
	16	ハンディーターミナルでバーコードを入力し、棚の本の在庫点検ができること。また、不明・除籍・未登録・貸出中未返却(自動的に返却処理される)・配架間違いの資料のチェックリストを出力できること。			
	17	蔵書のバーコードの未入力(点検もれ)の一覧が印刷できること。点検もれバーコードのみ入力/累積し、最終的に不明資料を確認できること。			
受入	18	各種マークデータにより一括受入後、専用画面で検収処理ができること。また、検収前の本は貸出不可とし、検収後に貸出可能とすることができること。			
	19	現物受入の際には館、資料種別、請求記号等毎に設定されたローカル情報の規定値を表示できること。また業務の再起動を行わなくても規定値の変更ができること。			
オフライン処理	20	電源事故や回線事故に備え、サーバが稼動していない状況でもカウンタ業務ができること。			
	21	事故からの回復後、上記で処理した内容の反映ができること。			
相互貸借					
	1	借受本の簡易登録ができること。			
	2	利用者からのリクエストに応じて、他館への相互貸借資料の借受依頼ができること。借受依頼の際、書誌(タイトル)情報の簡易登録ができること。			
	3	借受依頼の際、相互貸借申込書の印刷ができること。			
	4	他館から借り受けた相互貸借資料のバーコードは、そのまま利用できること。また、自館で独自に新しくバーコードを付け替えることもできること。			
	5	他館から借り受けた相互貸借資料のバーコードをそのまま利用する場合、自館蔵書と同一バーコード番号の資料でも取扱できること。貸出/返却時に同一バーコードを検知し、職員判断で選択できること。			
	6	どこの館からどの資料を借りているか画面で表示可能であること。また、借受館へ返却済か等の状態も表示可能であること。			
	7	借受資料を、借受館、書名タイトル、受入日、返還予定日、依頼日で検索できること。また、検索結果を印刷・CSVで出力できること。			
	8	年報(相互貸借館毎・月毎の貸出冊数、借受冊数、分類毎月毎の貸出冊数、借受冊数)や実績一覧(借受タイトル・貸出タイトル)が印刷できること。			
インターネット向けサービス (WebOPAC PC/スマートフォン/タブレット 全般)					
	1	WWWサーバ経由でインターネット上のブラウザ端末から蔵書検索ができること。			
	2	最新の複数のブラウザ (Edge、Chromeなど) に対応すること。			
	3	レスポンシブデザインに対応し、マルチデバイス (PC、タブレット、スマホ) において同等の機能と操作性を有すること。			
	4	総務省が提唱するアクセシビリティの基準においてA以上とすること。			
	5	書名・著者名・出版社名・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索できること。			

	6	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字（例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等）どちらで入力しても検索可能であること。さらに、音が同じもの（例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等）も、どちらで入力しても検索可能であること。				
	7	検索中断件数の設定ができること。				
	8	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧が表示できること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示できること。				
	9	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からのお知らせを表示できること。				
	10	各機能の利用回数統計が出力できること。				
	11	検索項目を特定せず、検索語のみの入力でも検索できること。				
	12	全文検索ができること。				
	13	外部サイト(カーリル、Googleブックス)へのリンクを表示し、指定してリンク先の画面が表示できること。				
	14	Googleブックスと連携し、書影の表示が行えること。				
	15	詳細画面から予約申込ができること。				
	16	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。				
	17	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。				
	18	利用者カード番号とパスワードでログインできること。				
	19	利用者カード番号、パスワード、ワンタイムパスワードの多要素を使用したログインが可能なこと。				
	20	利用者のパスワードの桁数・文字種の制限が可能なこと。				
	21	蔵書にない資料のリクエストが行えること。				
	22	利用者バーコードを表示し、利用券として使用できること。				
AVブース管理						
	1	AVブースの利用予約ができること。				
読書推進サービス機能						
	1	利用者向け読書推進支援として、以下のサービスをインターネットを通じて利用者に提供できること。 書評・レーティング(評価ポイント)サービス、ブックリスト(利用者自身の仮想本棚)サービス、図書館からのおすすめサービス。				
	2	サービスサイトには個人を特定できる情報を格納せずに利用できること。				
	3	当館で利用者コード/パスワード取得利用者については、ニックネームによる利用ができること。				
	4	サービス利用時は、利用者コード/パスワードによる認証が必要なこと。				
	5	書評やレーティング情報の閲覧画面では、サービスと連携した資料の表紙画像も表示できること。				
	6	書評サービスにおいて、指定回数以上の違反報告があった場合(イタズラ目的の可能性がある場合)は、当館担当職員あてにメール通知ができること。				
	7	当館職員にて、不適切な書評情報の削除ができること。				
	8	当館職員にて、特定の利用者へのサービス利用制限(新規書評登録・ブックリスト(仮想本棚)への追加不可)ができること。				
	9	レーティング情報は、同サービス利用の他市町村図書館登録のレーティング情報と合わせた全体評価ポイントで表示できること。				
	10	レーティング情報は星印のマーク等による分かりやすい表示であること。				
	11	以下のインターネット蔵書検索各画面から簡単に書評・レーティング情報の登録・閲覧ができること。 検索結果一覧、検索結果詳細、貸出ランキング、予約ランキング、新着資料一覧、利用状況(貸出中/予約中資料情報)画面。				
	12	利用者の読書記録(当館貸出履歴情報)をインターネット上にブックリスト(仮想本棚)として閲覧できること。				
	13	利用者の予約記録(当館予約履歴情報)もブックリスト(仮想本棚)として閲覧できること。				
	14	読書記録・予約記録の取得、及び、閲覧については、利用者自身で同意することによりサービス可能であること。				
	15	当館インターネット蔵書検索結果から、利用者自身で「これから読みたい本」を読書状態(「読みたい」)を指定してブックリスト(仮想本棚)に登録・閲覧できること。				
	16	検索結果より、当館貸出資料以外でも「読んでいる本」「読み終わった本」も読書状態(「読んでいる」/「読み終わった」)を指定してブックリスト(仮想本棚)へ登録できること。				
	17	以下のインターネット蔵書検索各画面から簡単にブックリスト(仮想本棚)への登録ができること。 検索結果一覧、検索結果詳細、貸出ランキング、予約ランキング、新着資料一覧、利用状況(貸出中/予約中資料情報)画面。				

	18	読書状態(「読みたい」/「読んでいる」/「読み終わった」)は利用者自身で修正できること。また読み終わった日付も任意に登録できること。				
	19	ブックリスト(仮想本棚)に登録されている情報は、利用者自身で削除できること。				
	20	ブックリスト(仮想本棚)の資料明細を簡単な操作で任意に並べ替えができ、保存もできること。				
	21	当館自体が書評・ブックリスト(仮想本棚)登録することで、当館おすすめ本としてインターネットに公開できること。				
	22	当館おすすめ本は複数登録・公開できること。				
	23	当館おすすめ本はカテゴリ(一般・児童等)毎に登録・公開ができること。				
	24	当館おすすめ本はカテゴリ毎に絞り込みができること。				
帳票印刷						
	1	統計資料はExcelと連携し画面で確認でき、必要に応じてプリンタに印刷指示できること。また、Excelで2次加工(グラフ作成等)や保存することができること。				
	2	利用者・所蔵情報等、任意の条件によって抽出する機能があり、結果がCSV形式など加工可能なデータとして保存・印刷ができること。CSVファイルは項目見出しつきで出力されること。				
	3	日本図書館協会調査票に対する項目が出力できること。				
	4	統計表(日報、月報、年報)について、ひとつの出力画面から帳票を出力できること。				
	5	キハラ3段、埼玉福祉会1段の背ラベルが印刷できること。また、出口で印字レイアウトの調整や独自用紙への印字も可能なこと。				
	6	資料コードを入力することで、バーコード印刷ができること。				
	7	特定の利用者資格の貸出、返却、予約を統計の集計から除外できること。				